

2022年度 一般社団法人那覇青年会議所

国際交流委員会 委員長 平良 勇人

<p>現 状 分 析</p>	<p>沖縄がかつて琉球王国であった時代から貿易は盛んに行われ、今でもなお日本と東アジアへの玄関口としての国際物流拠点の拡大、2019年までの外国人観光客数の堅調な増加など地理的優位性を活かした経済活動・民間交流を行ってきており、更なる発展へ向け交流による他国の文化・慣習を学び国際知識・見識・感覚を養い、活かすことで地域社会へ寄与する人財となる必要があります。</p>	
<p>目指すべき状態</p>	<p>■姉妹JICとの国際交流事業を実施し親交を深めた状態 ■JIC 那覇の会員が国際交流の機会を得た状態 (各会員に各種事業へ最低でも1度はご参加頂き100%を目指す。) ■行政・民間における国際交流が更なる発展、活発化する状態</p>	
<p>連 携 概 要</p>	<p>■姉妹JICとの国際交流事業の実施 台湾四海JIC、香港北区JIC、シンガポールマンダリンJICと連携し交流事業を行い、各会員へ国際交流の場を設け、姉妹関係の発展・継続を図る。 ■行政・民間における国際交流、ビジネスの活発化に繋がる事業の実施</p>	
<p>S D G s</p>	<p>SDGsのゴールとターゲット番号</p>	
	<p>4. 質の高い教育をみんなに</p>	<p>4.7 2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。</p>
	<p>8. 働きがいも経済成長も</p>	<p>8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。</p>
<p>17. パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>17.17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。</p>	
<p>運 動 手 法</p>	<p>■CNN会議 2022年5月に行われるJIC ASPAC堺高石大会において姉妹JICとのCNN会議を設け各会議所の運動報告や8月のサマーキャンプの調整等を行います。 ■児童国際交流サマーキャンプ 姉妹JICである台湾四海JIC、香港北区JIC、シンガポールマンダリンJICと連携し児童交流サマーキャンプを沖縄に誘致し実施、お互いの文化や慣習を学ぶ機会を設け、国際人財の育成を図ります。 ■国際ビジネス勉強会 勉強会等により沖縄の地の利を活かした国際ビジネスへ繋がるきっかけとなる意識の醸成を図ります。</p>	
<p>カ ウ ン タ ー パ ー ト ナ ー</p>	<p>台湾四海JIC 香港北区JIC シンガポールマンダリンJIC 那覇市 那覇空港ビルディング株式会社</p>	

意見 1 : 新型コロナの感染者は12月に第6波がくるといわれているので、2022年も今年同様にコロナの影響を受ける可能性は大いにあると思いますので、是非コロナ禍でも平良委員長らしさで独自の視点から運動を展開できるように今から少しずつ固めていってください。

対応 1 : コロナ禍においても実施可能な手法を用いて運動を展開してまいります。

意見 2 : サマリーに記載するかは別として、来年2022年も海外渡航ができるかどうか読めない面もあるかと思しますので、サマーキャンプができなかった場合、児童をWEB、文通などで何かしら交流させるなど、B案をもっともいいかと思ひます。

対応 2 : 様々な状況を見極めながら事業を構築して参ります、開催手法に選択肢を持たせる際は議案に記載してまいります。

意見 3 : コロナウイルス蔓延の状況で姉妹JCとの国際交流がなかなかできていないので、どんな状況であってもその中でできる手法で親交を深める環境づくりを宜しくお願ひします。

対応 3 : 対応 1 に同じく、実施可能な手法を用いて運動を展開してまいります。

意見 4 : 『国際ビジネス勉強会』は日本青年会議所の国際系でよく見かける内容なので、それをJCI那覇という1つのLOMで行うことに大変興味を抱いております。平良委員長のカラーを前面に出した素晴らしい事業を是非行ってください。

対応 4 : 本会の事業も参考にしつつ那覇市に関連性を持たせた勉強会を開催できるよう構築してまいります。

意見 5 : コロナ禍の状況はしばらく続く可能性が高いですが、例えコロナ禍であっても姉妹JCとの交流が出来るような事業を是非進めてください。宜しくお願ひします。

対応 5 : 対応 1, 3 に同じく、実施可能な手法を用いて運動を展開してまいります。

意見 6 : オンラインに特化した事業構築を考えてみては？

対応 6 : 今後の状況を見極めながら判断したいと存じますが、まずはリアルでの開催を念頭に進めたいです。

意見 7 : サマーキャンプ誘致等、姉妹JCとの早めの接触を。

対応 7 : 伊藤理事長予定者を含め年内には1回目の接触を図りたいと思ひます。